

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

蝦夷随筆

---

氏隨筆

飛鳥隨筆

○江都より津路原三馬屋と云ふまで行程計百二十里以下  
 といひ初と久留根を越へ渡海す。其風を噴風といふは俗  
 名風也。ヤマトと云は海一凡八九里あると云ふ。新羅に渡りわく  
 マツ。カケレホシラ。と云ふ。三流の潮船有り。渡風はやく  
 風ゆたは肉ハさう切ひさし。噴風と云ふ。余あれども沖に  
 風ゆたはし。潮十流されて南部の沖。津路原を向ふ。  
 方々也。又其乃。同々潮ヨリと云有り。これ列島の列斗  
 止。止す。有。海原より。潮。海。お。て。は。方。より。又。波。と。云  
 己。す。の。及。よ。を。く。是。御。を。ハ。綿。絮。と。敷。一。た。た。ま。く  
 まく。海。面。二。段。も。ま。く。又。ゆ。の。は。何。れ。も。あ。る。を。も。た。ぬ。奴。の  
 強。弱。す。及。お。され。と。潮。起。り。ま。く。波。松。す。向。の。か。ら。い。也

此後りとて松若乃西に別松若地也此後行候も潮の  
 らく海岸巖石多きなり常則の船も爰より破船  
 するも也業内ありき船船のくも雲雲霧海に於て船依  
 り及之元天文二年丁己の瑞路は附晴大噴風也(余船せ)  
 あり洋吹止乃霧中曇りあり白くたる川く霧を  
 引りこし多ク船中烟霧あり及之方船にやして沖におれを  
 彼煙者此肉(余)へむとく々々空乃光りも又えつれ固  
 く候て方船と云ひわかれこすこす霧ひりまにや  
 うて日も暮山を曇りていよく方船とわすれ支れ別  
 は西風吹出く月の光もわすれ又入り候候りて也  
 別斗はは船の者あつと云所く若若舟は若船をこす雲の  
 色もく山の秋海の色も受ててわれも西風もく六もく

たり若を大に威を向及者時も不足いりく此地より  
 去りるとい細く受者なり又又あるも此巖も  
 亂去り候候りていよく云もとてとりれを船と云  
 船は又別りるも船とて西風もよりて大に入り候候り  
 て海とての船体も暴風を云よ及り候又雲霧も道に  
 たり附被り候り及之受也

○松若と蝦夷とを一周して松若領と云ふ凡六十里 西  
 へ熊石東へ龜田此處あり一閑而有益なり外ハ蝦夷  
 地とい所まで行来御改め之故して蝦夷地は改めりて  
 林の地ハ海をこくくくわハ山と負東西二里斗り家  
 はこくわく南中ハ狭く城を屋敷作りて楮三有之  
 此西もも南の第一宅也



乃よそを伴御ほどききと考て四角ある取子千石付く  
江部(献上有に橋と云布して市と立取のよ誠信相と  
一話也(考初の事一度大也されとも運上とてハれ  
離一運上有元れぬ以要取十百年不獲と云事  
をく獲内らあめりつと相あふ年と年と内取と遠ハ  
春今十月より寄来く九二十日布との内十三度考  
来ると内獲とゆれハ翌年までの渡也是と流く離れ考  
来く伏クキルと云ハ何々我身と相取中の有るハを  
収めても上下一同う以考す初くくして田化の秋と果考  
るひな一春より初り九二十日程ハ元江色て江  
上十月中旬初り六月より又昆布十町り六月中旬  
り昆布とそり江岸七月々上下一統ハ体ても多布ハ下

打込く踊有たよりも古風く流あたるる一奥將  
乃浸くよりとも踊り色とも相あ付上とされ一冬終り道  
路自中ありあるへ一八月はよりハ冷氣強くあり乃  
ま九月ハ冬も降るやれ寒氣よありとを挿し用さ  
家くよいとも考より是すくハ何乃事考も考考内  
まくゆ一考れあつた

○蝦夷地廣大也松前地下西方々ソウヤと二百六十里東方  
ハキイタワフと四百里と云陸境さあれとも云山と切て  
乃海れく海と此里教かれハ極くく早教とも云わ  
東西海を繋訓さう船方此者とも云んやと二百  
七八十里キイタワフと二百里中と云りとも有海一以東  
西面所通ハ松前より商船以て交易ハ是より奥へ

相通はさる所なりゆきほつきと搬賣も信託する村に有い  
松ヶ久保、赤丸石六十里と云是と奥搬賣と云と一箇  
の周廻凡八十と云然らば事大抵是れなり

○ 般通路有る事此般賣ともハシ、松常乃百疋也此里  
般此土地少領主乃鹿入の仰ハ、為種家臣の初り子別度  
して土地と余化か、搬賣一村の酋長もて松を此令と  
交て便儀と事々、商人も迫搬賣乃、村と信令  
相成、運上と納て般賣と事、便儀ゆ、先  
に獲物と他由、江戸と事、搬賣と、商人を  
商人とおも、江戸と事、亦商人を相成、  
運上と納て、信場所、入込、運上令別、或乃  
初り收納也、及友初り、か、石、乃

おりのれ

蝦夷産物

鷹

鷹羽 真羽カステ  
空ハカ、ハシ

鶴

熊膽 エフリコ

鯢

昆布 ウロニア、取所、石、骨、キ、ラ  
上、品、ト、ス、ニ、フ、リ、タ、下、品、ト、ス

鞋

干鞋、塩川、  
越、子、敷、子

熊皮

鹿皮 子、ツ、皮、ト、皮

串貝

煎海菜

干鱈

鯨 石、焼、カ、イ、鯨  
軟、ク、テ

鯨油

椎茸

猧虎皮

是、東、海、猧、虎、鳥、ア、リ、島、蝦、夷、キ、イ、タ、ク、東、ア、タ、島、

猛犬膽

是、東、海、ワ、ク、ノ、入、江、ナ、リ、海、冬、積、氷、ノ、時、浮、東、ル、ク、蝦、夷、

蝦夷錦

衣履に任じラルシマノクニニ巻物ヲキラン下ニ多クハ古キレ也

アサラシ皮

虫草

此色有青玉多ク流ル此三品ハ西海ツクマノ産物也此年秋止也

北有ヨリ蝦夷ハ汝又物

米

八井ノ一畝トス 酒二斗トス

糶塩鍋出及糸

針タヒユ 古着 漆木綿 キセル

右之類也

○米々海陸秋田酒田より出ー沙領之を酒田田也是乃内之そにちあり後沙買積りあり時乃お湯を以て付合上納くそあり取入運上並有商人より而後へは返米せせさる石更知く浦首より米入込米込山より下野の者連也

○カテと倉と山とと三下

○國中東西乃方々山多く西より方々本内地方多し此

岩石多しとして峯嶺スルドケ切之るなりト高山此地頂

をましく令根の氣味を硫黄れ氣味を燒硫黄より去地

子令氣味多しなり此類れ一といへり七十年以

あつて八年も砂令とを沙領之を納め米込坂より

くわく布力と砂令場ハ松前領内よりハ仙見ヶ嶽ニ

ウチ東聚英地までハクニイウニウチナリ昔は猪三場

取とも敷十里ノ後ニ場有るなりハ此口是年海より

上ノ砂令也惣して餘りなり此も砂令を令山より流る

スル砂令もて俵列しては僅中なる也松前聚英地乃り

ハ山川を云々及於原野とては砂令有敢て令山より流



出すりし那の土に砂令氣充てせし是乃砂令が原也  
とも古土一揆にすなり河原此令氣有所有(記)是原  
是と尋斗り砂令場乃河原に令山有之証據相  
似し理に見極き候と云り此化砂令を乃の候あり  
て令氣の之を逐て窟中へ入る事とを和信(記)は  
令山と稱しと事ハるしと云り場なる跡を記すも  
非又砂令を見せりて塚を乃て令石と曰ふ事場  
のそはれし是を銀山洞山等と稱又此の記し者  
ともるく只お終りて有斗り也此化源を以れ令を  
ひも小判の通用は迫き以よりは訓を乃て今  
砂令老の若目也

度長 小判一両 金七匁二分 金一匁 錢六百文

○石山より河原に砂令を採有る洞山を十字山及大山袴  
山あり二十五年以前トモツキて火をわし七日七夜燃せし是  
山中より燒をとりそりて後乃山山あり今も代わら  
檜を燃しと女きとの、す、燃夷化へけても掃地敷  
夷松とて一掃有檜を燃しは木を燃し有是又化由す  
るに松也は乃飛譯を久き掃と云りの採高商人と  
夷地一面採本山と傳合ては部又坂(記)松乃ちりし  
ちりは部めと物と屋障子曲物等と用し亦本目  
ココロありて節あり袴ありも夷なり又大系松有燃夷  
松よりハ品とてれり新基とてトツラ言と云本有松  
の折とて柱檣朴ノ木黄蘗等多し竹葉等一失竹  
半也古化度大なるも寒風ゆめを氣物き心致茶



自ら彼も荒れ秋冬にわたり西風の荒れは彼清大洋より  
押さるるは阿麻庵の砂金を降しけり也春夏ともも  
大荒乃したる翌日ハ砂金有け候との命し西と傳て死  
は入るる初めさゆに仲して破船れりるホ北渡(カキチ  
そらその肉も見地知れも有又又再探もあらず有是  
又石也知れも有あきハ吳宮より漂流の初めし一ノ松  
よりハホロまで海上百六十里也け色よりソラヤと云山少  
く卒末多し一人云ハ無くく山を東南と告しして西  
山と云くその山多しけ山を居るを阿麻庵西山卒使れ  
地多く東南と云く山中を去りし山峻嶺スルトキ  
景氣もさハ山の松ありて海のものとなり然れども  
ハホロを極寒乃地より中く候なるさ地ハ北の草

本更(筆)を少き百友船乗ガミモ任せ凡僧く砂金をたりに  
やを籠ぢり若し有あれとも多くハ字ハ丸めて死せり死  
さるるのハ松ありて海よりさしして廢人ハゆけり  
○ 秘宗乃云ちハ大洋(漂流)くく方而を失ひ何さ(如)も  
至有る多し其ハ阿の雲と云て是を根有て立り  
中をとりヤウと云是を身也阿ノ一云ちりし必しわし山  
島有とありハホロハ大洋(漂流)せし若の云ちりる方とを  
メバワラヤウ又四方有りしもの云ちりしとあり朝  
鮮とも有(き)也又飛天(商人)の云ちりるハホロハ朝鮮と  
對してさ方西にれと云り(さ)もわたりし(さ)れども多  
はをき(れ)も(た)は(三)十年(花)憲(廟)の代(朝)鮮(代)官  
人李仙達と云きのハホロ(漂)着(友)又商人又(官)連

より白都(近道有て)は(石)れ即(味)者(漂)若(石)と  
る(根)皮(對)鳥(渡)され(る)生(也) 仍(有)て(る)なり(り) け(り)  
沿(道)沿(道)乃(同)根(也)は(立)ち(き)り(肉)好(き)に(き)ち(り)と(き)ち(り)  
墨(跡)有(个)に(而)乃(若)者(有)に(故)葉(葉)と(て)ハ(か)り(り)け(り)と  
也(又)十(年)以(ち)而(根)葉(交易)は(川)を(り)高(船)暴(風)と(途)  
朝鮮(漂)着(せ)て(朝鮮)より(島)島(送)り(け)り(て)味(味)  
色(色)を(桑)の(皮)皮(相)あ(り)て(滑)り(り)と(是)を(石)を(り)と(石)  
輝(の)産(物)の(肉)麩(糠)糠(五)葉(松)等(有)り(剛)西(蝦)夷(と)  
産(物)は(同)一(國)と(而)蝦(夷)地(に)人(來)り(可)有(り)と(思)ひ(て)乃  
若(き)も(と)も(あ)る(者)乃(一)蝦(夷)高(人)ハ(海)を(わ)て(山)と(思)ひ(て)乃  
也(豈)根(人)來(り)と(有)り(と)と(是)を(り)と(石)を(り)と(石)本(多)り(と)  
石(爲)は(石)を(り)と(石)年(朝鮮)人(來)り(乃)種(洋)種(と)根(也)

と(林)鎮(有)て(る)は(若)武(の)原(也) 乃(有)は(種)を(外)に(渡)り(同)年  
館(と)と(る)也(と)す(所)れ(也)山(上)北(向)なり(而)極(置)置(り)云(北)に(食)  
さ(る)也(乃)培(長)せ(り)と(今)一(植)と(り)乃(附)の(所)を(有)根(也)ハ(ま)  
る(く)云(地)に(合)さ(り)と(今)一(て)元(生)二(本)植(と)也(乃)今(一)整(年)  
と(之)の(り)と(今)一(て)又(之)を(或)本(初)來(て)今(々)七(本)有(根)も(蒂)  
根(と)て(之)れ(く)也(豈)根(也)本(單)れ(因)經(と)合(て)也(乃)一(枝)れ(り)  
か(一)異(也)乃(有)唐(と)朝鮮(と)の(遠)れ(也)也(豈)根(も)れ(と)  
和(乃)蒂(根)と(ハ)氣(味)も(各)別(多)り(一) 味(種)と(根)と(七)里  
比(海)を(隔)と(り)と(今)一(て)也(凡)云(此)者(有)り

○(余)口(の)並(小)イ(言)り(川)と(云)大(河)有(川)口(度)サ(一)里(斗)一(里)得(と)  
川(上)より(沿)て(水)寬(く)川(幅)次(半)ノ(度)く(四)十(町)五(十)町  
平(乃)及(小)河(も)皆(若)く(水)多(く)未(だ)培(成)ぬ(一)川(川)深(知)と(と)

此より先年、岩内と云所の蝦夷等、船にて降り、土  
の信り、あれとも、土保、あれさりと、なり、川面、千、蝦夷、住居  
して、松方、高人も、仍、高、又、奥、蝦夷、エ、ウ、ツ、と、云、川、と、い、い、言、り  
を、倍、せ、エ、河、也、河、を、千、蝦夷、村、多、く、蝦夷、地、と、て、夷、人  
此、多、き、と、い、エ、ウ、ツ、を、一、と、す、と、い、よ、一、ウ、と、と、大、河、此、事、一  
ア、イ、と、と、小、川、の、夷、云、也

○キイタツフを、海、高、取、を、居、れ、隔、り、て、獵、虎、し、け、所、と、て  
交易、す、り、也、け、さ、高、多、一、所、謂、蝦夷、乃、千、高、彼、大、洋、  
以、て、ハ、何、種、高、取、有、と、云、事、と、不、知、松、前、(あ、さ、か、高、取、  
三、七、門、と、て、大、嶋、也、す、く、れ、て、大、島、と、と、取、十、三、三、と、  
也、高、取、十、三、三、蝦夷、住、居、し、て、獵、虎、と、れ、獵、虎、も、一、  
島、と、獵、虎、と、蝦夷、産、物、乃、最、多、と、の、也、と、高、取、蝦夷、

キイタツフ(交易)と、多、く、と、物、行、り、り、の、と、と、也、強、風、か、く  
船、而、里、の、如、吹、あ、ら、れ、そ、り、一、内、街、高、と、又、居、け、て、船、と、多、  
あり、一、と、高、の、と、の、と、男、女、の、及、あ、り、ぬ、く、皆、一、腰、と、有、  
者、が、修、師、し、さ、さ、り、ふ、た、り、ひ、く、船、と、多、な、り、あ、れ、ハ、文、母、備  
(お、て、あ、る、と、云、あ、れ、と、何、と、云、さ、り、と、わ、り、り、の、と、く、て、色  
一、さ、り、一、と、キイタツフより、ハ、水、千、高、と、云、と、又、高、取、高、り  
と、高、の、内、に、蝦夷、有、て、毛、髪、編、み、を、蝦夷、有、と、云、り

○キイタツフより、二十里、と、云、よ、り、ケ、キ、と、云、高、有、り、大、枝、と、あ、り、  
以、八、年、以、前、南、都、府、高、人、過、文、太、夫、と、云、者、知、り、り、ア、タ、此、山  
へ、一、と、枝、と、あ、り、皆、帆、柱、と、用、を、一、以、内、ア、ウ、キ、と、り、直  
り、ハ、ア、(と、云、者、波、地、明、の、指、右、向、を、有、我、馬、と、稱、を、り、大  
枝、右、と、は、さ、り、)て、今、千、船、と、有、と、云、い、を、高、大、洋、と、云、と、く









をそこのも、花のあまのよ、  
ねらのゆく、花あまのよ、  
わけて、若く、  
使の内、  
一年、  
花あまのよ、  
粟稗、  
斗、  
雲、  
陽気、

不省、馬、  
右、  
六、  
菊、

○  
方、  
不、  
乙、  
乙、  
乙、  
乙、

奥州古國ありて、般わりの下はわめて志田を以て  
去地堅く三里斗の平地有南として百餘里あり、此を  
山を尾之末くゆり、也景勝、渡河まこと、也山を龜田より  
三十里、東嶽、夷地、白ヶ嶽と云山有他頂、麓出でて白ヶ嶽  
の如く、山なり、麓、古光寺の跡、此を安置する、嶽、夷  
と是とぞ、敬、不思、及の奇、瑞、有、一、云、傳、上、聚、夷、地、  
也、彼、東、禁、制、な、れ、と、也、世、乃、傍、々、也、以、て、毛、宿、す、と、白、ヶ、  
嶽、の、麓、を、又、入、口、也、景、勝、も、此、而、之、西、を、太、田、山、と、白、ヶ、  
嶽、と、て、信、心、の、希、々、を、諸、ま、り、也、一、云、悉、く、山、光、化、  
方、此、而、之、枝、群、の、言、山、と、ん、を、一、白、ヶ、嶽、より、六、十、里、  
奥、一、ニ、リ、ハ、山、と、云、有、富士山と直り、村、若、き、方、と、く、有、  
さ、山、と、云、と、も、男、士、山、と、十、里、と、云、ハ、信、う、向、く、一、南、部、

也、若、鷲、山、傳、授、て、岩、壁、山、ハ、南、部、は、傳、授、留、を、林、  
取、家、と、せ、り、傳、授、れ、と、も、言、サ、と、富士山の三を、一、あり、一、ニ、リ、  
ハ、山、と、云、ハ、山、より、信、せ、り、一、言、り、之、聚、夷、中、乃、三、山、と、松、高、の、と、  
と、も、云、り、松、高、願、も、中央の大山ハ、仙、見、ヶ、嶽、と、云、松、高、より、八、  
里、有、て、山、と、此、嶽、と、傳、授、事、十、一、と、く、仙、見、ヶ、嶽、乃、高、嶽、  
也、ハ、山、頂、也、也、し、り、と、傳、授、付、ハ、眼、力、に、及、不、可、ハ、云、三、ヶ、嶽、  
南、を、南、部、麓、山、より、傳、授、乃、岩、壁、山、西、を、ケ、ニ、三、ヶ、嶽、ラ、コ、  
ニ、リ、海、中、山、也、一、云、々、箱、籠、也、一、傳、授、く、群、嶽、傳、授、陽、日、ニ、ウ、ツ、  
を、と、く、一、松、高、を、直、下、あり、て、松、高、も、是、ゆ、り、也、是、松、高、  
中、に、金、銀、山、ハ、根、木、也、と、云、り、  
志、願、此、海、時、松、高、山、領、と、く、海、島、有、て、地、形、固、く、な、り、  
狩、野、松、高、こ、一、命、を、と、く、也、又、黄、門、光、國、師

振夷地此固田少凡のよめ大松とはして松あり毛振夷の  
土道けりて頃凡掃して可敷なり西振夷此ミケと云所  
まて海のけりるを林此事やと及ハ海と所くくわくふ  
物さるるをまて海くくして清くくく地

○振夷海辺に位て山は位をかり奥掃と云く人漢人此  
加の山に位振夷を耕粟少者位り又獸と云て食しそ  
彼と者人此して甘受受位りく癡也又此位見つ屋き  
存、奥に英杖にて獸に著しき形あれとも心は實  
ありて衣食位に炊少く利倍の巧みきるなり(座)衣  
布をいつる福又とて心平位せ家位を山より水ととり  
飽もそれけ並居り一床をくして塔云向取を本位皮小  
て處人より有衣をラミウと云本位皮と云てメコシ

御り一毛と云と云メコシといか此方云也又獸位皮と  
若し背に位てり神ありて空暑故てとをれさる座敷  
髪めを冠りとのるく既足りて帯を人食おらゆい  
より亦御夕と極くく食事なく只晚餐而已とく一食也  
形剃肩深髪髪長くと忽身毛れせとて事熊  
のこ一何しの毛より習性さる也耳の毛をいたり別法  
よえのれともま力なりとのれしけりの人と角力を振り  
腰より負く勝とのれしとより腕と頸に力ありとて  
きるおれも額に南物してけり人負りりやくみく  
けり男やると然くも肉とど好漢掃の獲わはるか是耳  
アト云云

○かを髪と切りて先の毛を色りりて耳かまを皆

○堀の橋東橋より上唐と云へ入雲十カ子云凡也唐を巴人  
細のさのまゝ、暮局の如くいろくの形と云くよあきう仍  
ふは文たきことタテはつかりてアラスの上十常とて滞り  
ままを障敷の如く連てぬらうものと思又こきとて丸  
鑑十端と肩袖の如くは後へ出る所を骨うきとて又十端  
と御力の如く甲斐とて後へ出る所を骨うきとて又十端  
とアラスと御事とをほとえて貞固也

○曾根公秋の端と云くは後へ出る所を骨うきとて又十端  
とアラスと御事とをほとえて貞固也  
まへにすともこを有といへると云かりて因縁地と云  
ぬ一節末を世とある也是也(カセクひあふ若魚子あ  
まご邑遊松ふそ布々又他邑)判て骨とある今松原の  
願内へ飛走有是と云く乃飛走と云く(又大方違くと

つれりとの所也

○は後南都にも飛走有云所を色といへる以て月代と也  
判じ方の中か)りく髪有は飛走と本邦改古よりれ  
飛走してねち飛走と命をらうとをまへ至國と云く  
そ別家すともく外と後ウラとを市十比帝と帝といふ  
飛走、夷中の巨壁也外と後ウラとを市十比帝と帝といふ  
とす之平一日過きうく二娘二人りて琴を弾て歌曲と云  
る後遠れ一ちや

○飛走村のを長と云つたと云本邦の産産也ねちより令  
とすとみつて飛走と云はてはり知し海も春あき産産を  
ねちとせせくねちと云つと云しそ有物邑恐慎と云  
るねちねちと云ねちと云はりて体鳥と云しと云と目と不

海内々外（石）酒盛まゝにして高ひ等も七尺程使也  
是れ此の酒鹿の皮等と石者本邦れ如多蒙れ古也と  
者一節とて又ラトと者すも有目之儀て極さる  
酒と終ひ又弟とまゝらふ如くして祝者有賜の酒と  
中座に置常帯して如く又の後と坐し極まるとお對  
てまを指て祝言有如砂とれうと酒と盛るる人又飲  
客の勤め客の礼客有鬯揚とくく常のこくをうお  
飲は差さる碗の上よりとく程大酒と有百とまを指  
てめし解也たのまゆと碗と右れもあて鬯揚と酒  
をりりたる碗と極巴鬯揚と極酒はけくた右り  
ろ（ゆとよりかけ口を因て唱言を祝り極りて鬯揚  
めく泉下の髭とよく酒と飲碗三盃の酒をれハ二口

故本邦の陳茶香伴身て急夜極り吞極りも碗とす  
りてちりて飲干し又一杯受て鬯揚と載て之く返り敬  
意とけれあぬれ酒醒り及て敬とくひまの淨福  
理を極り音聲とて仏象の標名と唱す声のこくは女  
子飲りて鬯有けたり又ハ風流肌一胸とまて抄  
又もとちてくく也る高乃帯と云有髭の髪とてさ  
きう脚をとり也折く船の啼声とれ一抱子とてわら  
と争い入ふかさ能るれも本邦のもの又て又ハ石高  
公淨福理と仙臺淨福理乃声して長ハヤメのあて  
声と張き先と極り有二杯の酒をれハ吞るるを別と  
者もあく只吞まのむ申也同又極りくくハ断りてわく  
高ひとすか也一を極まハ年々わらあて飲進極まれ

春毎午を己午 松葉を撰取て人招き酒を飲せり  
 歌をうつくしきなりをうつくしきとて過劍を尋ねり  
 此れは彼れあつてんが山(上)れは彼れあつてんが山  
 をうつくしきなりとて酒を飲せり  
 一人を島者の羽一尾一人をカイメラ一歌の持来り連之と  
 半(八)羽を先を島撰取松葉をとり百二十字東シラ  
 ライと云ふの者にて春とシラコカシカヨ云り名を尋ねり事  
 之れは尋ねり尋ねり尋ねり尋ねり尋ねり尋ねり尋ねり尋ねり  
 彼れは事也二人を御味を撰取て松葉をとり功有之  
 のを辨(ハ)シイガ二乱の時石洗堂にて松葉をとり  
 者との子孫と云り  
 ○ 神佛をく醫薬なく文字れ一只酒を飲時と云(云)有

彼れは申す尊宗す。その者として又云り何と礼何と唱  
 と尋ねりれと申す叙と尋ねりて人れ尋ねりて何と  
 さふり尋ねり思慮なりやり強く国に神仏の像もあけ  
 さい何と祀ると云ると尋ねりて天と祀りて祀す  
 守り有れを撰取木根(海岸)にて祀りて又ア外あり  
 酒を撰取て天と祀りて何と尋ねりて天と云り何れを祀  
 (海)と云りて天と祀りて何と尋ねりて天と云り何れを祀  
 と云り本邦と云りて何と尋ねりて天と云り何れを祀  
 元氏淨瑠璃の因りて撰取の因りて何と尋ねりて天と云り何れを祀  
 何れを撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取  
 何れを撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取  
 何れを撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取て撰取

とは幾代もて暴風は遙か遠はれりといふを記し  
りたり又或筆記に東嶽夷シルと云ふ一書は社  
有く今も不地祭の儀夷々云々及信村に敷  
夷と宗敷を云ふと云ふの附の書者ラヒシも則ちの敷  
也といふの附の中一敷ておとの丸一ラヒシがわい  
カレと云ふ山中岩窟有く古仙人住たりと云傳へる  
所とあれども義記乃社とてをわいと云りクルハカルの同  
遠方云々西嶽夷記に六条の同と云す辨慶時と  
云所も或記は西より中も藤原の御り也といふなり是  
と云ふことありては藤原の事と夷と云ふのキクルこと云  
り是々傳る程其書ありとの同まけ傳る程の根元ぬ  
何とてゆりゆめりる是れ文句と釈す大畧可なりはと云

夷語よく通き通詞をなく又文字ありといふは物毎  
地儘すは縄と傳へて或を其時刻とつけ在心をと云  
何年とてはけぬ是らり云々の丸一高松懸夷地  
なく劫きの入事あれをわい傳へるは縄と割有本と  
と丸のりて去年の事と需り女すは縄縄のゆる又  
一おまよとのとを丸の物と云ふとキ事有一村の者  
まむは縄と云て是と云ふ又一又遠れ又云ふと云ふ  
一そ禽獸と云ふと云ふ村と云ふ茶井の中と傳へる  
は丸のり一禽獸と云ふ丸一野茶ありて夜鹿鹿麻珍  
所獲ありて死亡の書書き及之物と傳と死と云ふは  
死者の父は父は父といふと云ふに於て山中に遠れり死  
後ゆり死者の父を云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

包山守(遠)り秘蔵と一とのとる秘蔵を包て回(返)せり  
意い燒ゆ又改ゆりて死をり反り此年をれと死の用を  
を替(替)心を意(意)也死利乃毒(毒)冠(冠)り物として而(而)てれ(れ)たる  
る殺年又毒(毒)以(以)婦(婦)を(を)信(信)して女(女)を(を)貞(貞)実(実)すして嬖(嬖)妬(妬)比  
意(意)を(を)く(く)又(又)十(十)倍(倍)も(も)長(長)心(心)怯(怯)め(め)り(り)報(報)夷(夷)の(の)男(男)ひ(ひ)て(て)身(身)工  
匠(匠)に(に)之(之)の(の)種(種)如(如)唇(唇)多(多)く(く)巧(巧)く(く)り(り)如(如)房(房)み(み)人(人)有(有)れ(れ)は  
を(を)所(所)す(す)秘(秘)伝(伝)し(し)事(事)有(有)る(る)お(お)も(も)打(打)お(お)く(く)と(と)く(く)り(り)  
史(史)を(を)佩(佩)けて(て)ほ(ほ)さ(さ)命(命)も(も)懸(懸)す(す)と(と)云(云)り(り)産(産)所(所)則(則)ち(ち)自(自)身(身)乃  
死(死)ま(ま)る(る)ひ(ひ)も(も)死(死)に(に)を(を)信(信)す(す)れ(れ)出(出)氣(氣)ほ(ほ)く(く)と(と)按(按)は(は)針(針)毒(毒)丸(丸)  
一(一)毒(毒)十(十)倍(倍)入(入)て(て)を(を)洗(洗)ひ(ひ)又(又)洗(洗)ひ(ひ)又(又)洗(洗)ひ(ひ)と(と)の(の)と(と)を(を)す(す)き(き)洗  
ふ(ふ)考(考)て(て)血(血)れ(れ)強(強)く(く)る(る)も(も)な(な)る(る)も(も)妙(妙)也(也)れ(れ)と(と)云(云)り(り)  
○男(男)の(の)道(道)具(具)々(々)も(も)毒(毒)芥(芥)子(子)の(の)長(長)サ(サ)も(も)大(大)斗(斗)ヲ(ヲ)コ(コ)と(と)云(云)り

本の幹と丸削り、強々度蔓の心と合て用の法り、  
微力の者々、引ひの矢々、之(之)を(を)斗(斗)れ(れ)矢(矢)行(行)ふ(ふ)眼(眼)を(を)二(二)眼(眼)つ(つ)け(け)  
て(て)誤(誤)々(々)其(其)を(を)削(削)て(て)用(用)ゆ(ゆ)又(又)石(石)を(を)磨(磨)る(る)も(も)用(用)回(回)藏(藏)毒(毒)を(を)  
ぬ(ぬ)り(り)有(有)余(余)藏(藏)と(と)耐(耐)り(り)千(千)々(々)ト(ト)フ(フ)事(事)も(も)なく(なく)申(申)多(多)し(し)と(と)  
外(外)放(放)る(る)千(千)々(々)事(事)も(も)なく(なく)申(申)如(如)也(也)大(大)方(方)は(は)信(信)命(命)す(す)也(也)や  
五(五)て(て)取(取)ひ(ひ)也(也)藏(藏)り(り)及(及)令(令)を(を)と(と)く(く)他(他)り(り)も(も)た(た)り(り)も(も)し(し)當(當)り(り)け  
ち(ち)より(より)使(使)し(し)と(と)ら(ら)る(る)も(も)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)也(也)荒(荒)神(神)と(と)て(て)を(を)一(一)鐵(鐵)す  
他(他)り(り)も(も)ら(ら)ぬ(ぬ)也(也)又(又)ス(ス)と(と)く(く)要(要)と(と)要(要)を(を)事(事)物(物)之(之)知(知)り(り)事(事)未(未)と  
し(し)自然(自然)と(と)訓(訓)治(治)さ(さ)る(る)也(也)海(海)産(産)之(之)魚(魚)氏(氏)身(身)有(有)二(二)斗(斗)産  
と(と)と(と)投(投)突(突)め(め)す(す)も(も)中(中)也(也)云(云)る(る)一(一)大(大)龜(龜)數(數)海(海)獸(獸)小  
と(と)マ(マ)ス(ス)一(一)突(突)て(て)死(死)さ(さ)る(る)也(也)追(追)突(突)して(して)又(又)一(一)突(突)投(投)突(突)め(め)る(る)  
る(る)也(也)麩(麩)子(子)と(と)突(突)マ(マ)ス(ス)と(と)釣(釣)の(の)や(や)り(り)て(て)捕(捕)る(る)也(也)信(信)す(す)と(と)云(云)り(り)



をひく要の咽(通)けぬ。川邊女川(五)と急流(八)に  
て目(九)の物(一〇)を多く破(一)れ(二)と(三)難(四)く有(五)る(六)所(七)に他(八)の物(九)を  
さ(一〇)事(一一)は(一二)明(一三)く又(一四)多(一五)く山(一六)口の(一七)物(一八)を(一九)多(二〇)く破(二一)ち(二二)り(二三)た(二四)り  
幣(二五)は(二六)金(二七)に成(二八)付(二九)飾(三〇)り(三一)金(三二)也(三三)ハ(三四)シ(三五)敷(三六)更(三七)加(三八)す(三九)とい(四〇)ふ  
ら(四一)う(四二)海(四三)也(四四)銀(四五)の(四六)多(四七)き(四八)所(四九)ハ(五〇)方(五一)銀(五二)に(五三)借(五四)り(五五)て(五六)新(五七)き(五八)者(五九)必  
か(六〇)の(六一)明(六二)ぬ(六三)有(六四)口(六五)ハ(六六)九(六七)寸(六八)半(六九)有(七〇)る(七一)赤(七二)錆(七三)は(七四)ぬ(七五)く(七六)有(七七)吏(七八)中(七九)投  
害(八〇)の(八一)多(八二)き(八三)所(八四)ハ(八五)力(八六)と(八七)磨(八八)り(八九)も(九〇)る(九一)密(九二)切(九三)として(九四)秘(九五)蔵(九六)し(九七)金  
斗(九八)也(九九)又(一〇〇)と(一〇一)云(一〇二)ぬ(一〇三)最(一〇四)長(一〇五)一(一〇六)尺(一〇七)半(一〇八)の(一〇九)指(一一〇)七(一一一)寸(一一二)半(一一三)此(一一四)同(一一五)々(一一六)法(一一七)也  
は(一一八)打(一一九)り(一二〇)ぬ(一二一)也(一二二)而(一二三)士(一二四)此(一二五)法(一二六)例(一二七)の(一二八)や(一二九)知(一三〇)事(一三一)より(一三二)秘(一三三)す(一三四)古(一三五)く(一三六)打  
す(一三七)の(一三八)自(一三九)心(一四〇)打(一四一)く(一四二)者(一四三)は(一四四)身(一四五)互(一四六)互(一四七)に(一四八)秘(一四九)す(一五〇)古(一五一)く(一五二)て(一五三)を(一五四)ぬ(一五五)ぬ(一五六)  
も(一五七)也(一五八)又(一五九)打(一六〇)く(一六一)て(一六二)其(一六三)中(一六四)修(一六五)練(一六六)此(一六七)而(一六八)能(一六九)也(一七〇)と(一七一)用(一七二)ゆ(一七三)る(一七四)事(一七五)を(一七六)秘(一七七)蔵(一七八)候(一七九)  
有(一八〇)り(一八一)付(一八二)果(一八三)の(一八四)秘(一八五)す(一八六)る(一八七)は(一八八)乃(一八九)く(一九〇)て(一九一)其(一九二)秘(一九三)蔵(一九四)の(一九五)者(一九六)ハ(一九七)秘(一九八)蔵(一九九)と(二〇〇)秘(二〇一)蔵(二〇二)と

一のき恨(八)なる(九)互(一〇)互(一一)打(一二)て(一三)白(一四)く(一五)秘(一六)す(一七)る(一八)所(一九)ハ(二〇)あ(二一)き(二二)也(二三)  
又(二四)秘(二五)蔵(二六)有(二七)る(二八)の(二九)と(三〇)打(三一)く(三二)去(三三)り(三四)又(三五)力(三六)打(三七)く(三八)云(三九)ふ(四〇)も(四一)有(四二)山(四三)谷(四四)海(四五)上  
より(四六)秘(四七)蔵(四八)す(四九)者(五〇)は(五一)一(五二)打(五三)り(五四)候(五五)秘(五六)蔵(五七)し(五八)て(五九)マ(六〇)キ(六一)と(六二)い(六三)ふ(六四)は(六五)  
一(六六)打(六七)り(六八)て(六九)血(七〇)と(七一)て(七二)是(七三)と(七四)帯(七五)し(七六)す(七七)る(七八)也(七九)マ(八〇)キ(八一)と(八二)い(八三)ふ(八四)ぬ(八五)は(八六)  
○毒(八七)箭(八八)非(八九)用(九〇)る(九一)毒(九二)の(九三)事(九四)秘(九五)蔵(九六)す(九七)る(九八)者(九九)ハ(一〇〇)高(一〇一)秘(一〇二)蔵(一〇三)者(一〇四)也(一〇五)  
を(一〇六)身(一〇七)に(一〇八)秘(一〇九)蔵(一一〇)す(一一一)て(一一二)候(一一三)秘(一一四)蔵(一一五)す(一一六)と(一一七)訓(一一八)保(一一九)て(一二〇)ら(一二一)る(一二二)者(一二三)  
も(一二四)秘(一二五)蔵(一二六)す(一二七)る(一二八)事(一二九)を(一三〇)開(一三一)け(一三二)り(一三三)候(一三四)ハ(一三五)中(一三六)に(一三七)ク(一三八)マ(一三九)シ(一四〇)て(一四一)同(一四二)と(一四三)  
し(一四四)と(一四五)云(一四六)ふ(一四七)事(一四八)ハ(一四九)あ(一五〇)き(一五一)と(一五二)秘(一五三)蔵(一五四)す(一五五)る(一五六)事(一五七)ハ(一五八)同(一五九)と(一六〇)云(一六一)ふ(一六二)  
と(一六三)ら(一六四)キ(一六五)一(一六六)回(一六七)ハ(一六八)是(一六九)の(一七〇)秘(一七一)蔵(一七二)す(一七三)る(一七四)事(一七五)ハ(一七六)同(一七七)と(一七八)云(一七九)ふ(一八〇)  
と(一八一)ら(一八二)キ(一八三)一(一八四)回(一八五)ハ(一八六)是(一八七)の(一八八)秘(一八九)蔵(一九〇)す(一九一)る(一九二)事(一九三)ハ(一九四)同(一九五)と(一九六)云(一九七)ふ(一九八)  
と(一九九)ら(二〇〇)キ(二〇一)一(二〇二)回(二〇三)ハ(二〇四)是(二〇五)の(二〇六)秘(二〇七)蔵(二〇八)す(二〇九)る(二一〇)事(二一一)ハ(二一二)同(二一三)と(二一四)云(二一五)ふ(二一六)  
と(二一七)ら(二一八)キ(二一九)一(二二〇)回(二二一)ハ(二二二)是(二二三)の(二二四)秘(二二五)蔵(二二六)す(二二七)る(二二八)事(二二九)ハ(二三〇)同(二三一)と(二三二)云(二三三)ふ(二三四)  
と(二三五)ら(二三六)キ(二三七)一(二三八)回(二三九)ハ(二四〇)是(二四一)の(二四二)秘(二四三)蔵(二四四)す(二四五)る(二四六)事(二四七)ハ(二四八)同(二四九)と(二五〇)云(二五一)ふ(二五二)  
と(二五三)ら(二五四)キ(二五五)一(二五六)回(二五七)ハ(二五八)是(二五九)の(二六〇)秘(二六一)蔵(二六二)す(二六三)る(二六四)事(二六五)ハ(二六六)同(二六七)と(二六八)云(二六九)ふ(二七〇)  
と(二七一)ら(二七二)キ(二七三)一(二七四)回(二七五)ハ(二七六)是(二七七)の(二七八)秘(二七九)蔵(二八〇)す(二八一)る(二八二)事(二八三)ハ(二八四)同(二八五)と(二八六)云(二八七)ふ(二八八)  
と(二八九)ら(二九〇)キ(二九一)一(二九二)回(二九三)ハ(二九四)是(二九五)の(二九六)秘(二九七)蔵(二九八)す(二九九)る(三〇〇)事(三〇一)ハ(三〇二)同(三〇三)と(三〇四)云(三〇五)ふ(三〇六)  
と(三〇七)ら(三〇八)キ(三〇九)一(三一〇)回(三一〇)ハ(三一〇)是(三一〇)の(三一〇)秘(三一〇)蔵(三一〇)す(三一〇)る(三一〇)事(三一〇)ハ(三一〇)同(三一〇)と(三一〇)云(三一〇)ふ(三一〇)

也海で二條吉英小口をひくくあを丹波一多と解也却阿  
毒烟合の重ひ余り者者一より二條吉英持に隠しり  
を隠しりりと信信何す夫又中より二條吉英の根貫一  
を人知りてくち中隠有る言知も入ると云り毒烟合を  
入事ゆ也然とて一著よりく易く毒多り一と云ふと氣  
薄く一著より易くさる付を然のみり害せたり友極  
て毒と入る事一機要の然を信ふとせく又然より何れ  
その付人より向やも力不可敵二相奔してと云ふ是ハお  
馬と云ふ友決死よりくお易れと云ふ西取れ付を三五  
四五とて易くぬれを打ちり者必害せり又友決死打  
とのれくしりて控りさる也云々一著より易く毒を  
奇毒也又タイツツと云ふ有獸れ通るる之儘と云柱と云

今キキ毒箭とは引付籠（降る）と云ふもくちと度もたは  
色と中よりとりやゆなく中々死さるるのれ一獸と夜  
挿る江わけ也と云り然るは二條然れ二つ有る一は都れ然  
を小然とて兼其の然を又然之馬と云ふ者極れ氣を  
力より易く一平首を指れて有る一引付山（入る）也云  
都と云ふとて馬をえ入れ我くそふ一者ハ何里人とい  
馬の左方一尺八寸竹筒を付脱れし一尺八寸角と云ふと  
二二人又竹筒を付て居ると云ふ所左方より脱履（脱）  
竹筒を突進より二尺有（さ）入りて然す大  
を依りて雨れ（も）と云ふ右四本の筒をかかり行り  
りり腕の上は八寸角筒両方より投げける者人乃者  
と云ふは通るりやけり此之類と云れは血乃引りて依山中

すくおちりし妻り然ればとるすし長き九尺有りま  
その事をもとて又尺も有る

○寶物としてまゝに秘藏しお育深く徳しそ女子は中  
しし初をいふ節より主附しむ者も夜山中に隠し居  
也とてわすれぬの古き書物又鈔目貫小柄の紙に所縁  
の古きとのより秘藏せり數更の法と記し不有有り  
罪の償いしと宝物と名をこめて相違し謝りし衆は種  
まゝしりしと宝物の教に傍觀をせしと宝物二十と云  
附して二刀とおしと小柄ありとありて二十れぬしと也  
い償いしと有り諸友強て多條のりれくお柄はむつ  
しとありてねおしと受し事ハれし世に重寶  
賣家眼を今とるしと元來數更しては初より所のおてハ

仇友の二致儀内の亂避て江列よりねおしとありて  
○月や海浜と明く數更（波）し産れと交易しと世  
とせしととる奥數更し強りするを高紙りて捜求重寶  
をしととる奥數更し強りするを高紙りて捜求重寶  
山中の數更しとありと強りするを有ととるねおしと  
一向分はり

○驚を樂ととりてたてと是より入相垂尾とて交易し然  
もこれ内よりと相違本邦の箱のゆくまの訓女房の乳を吞  
せと育しと祭の時と殺して喰ふ事と十月下旬は乃  
惠比須講付しと也一乳を吞しと酒を飲濟むお樂しいハ猶  
をしとる事とありとこの腹を吞しと其を屠りてととるは  
傾多まる進平と殺しと又粟米ととる禮ととるは湯ととる



けりて利倍と云ふをいふ神に上古民の凡有治年而年  
 の倍と云ふ者倍増長して士大夫亦倍一諸民皆倍意さる  
 古今の男ひを凡世の用令るの運き及る也凡倍數倍  
 一々衰弊のキリハれ然るに山海の利澤民も及る也  
 古く今とくらふれば倍と云ふを減くさるるに古砂金  
 盛なり却る時に他邦の者も多く入返然る地へ切つて  
 以て砂金を採運工領之(奉迎)三月一人砂金を五兩  
 也二支の運工を新りするにたれと數百人より兩を五  
 集るの田を益而して流幣四支投あき砂金を五集もす  
 二角五分のそくを砂金集りけると地帳を三納る砂金を  
 三十分の一にして砂金一兩に利潤とあり年あけて不可  
 言と云ふ井の亂と元文丁巳年ヨリ七十年以前の交代り

これを砂金の運とありと云ふを今領を(收納)と云ふ所  
 もかりとせよと文概とすめり

○ 古金十二百兩程 山積木運上

○ 同十七百兩程 雜運上

○ 同十二百兩程 高船運上

○ 同十七百兩程 蝦夷地秋運上

○ 同三百兩程 同夏運上

○ 同百兩程 昆布運上

○ 同十四百兩程 他國人役金

此和加年貢入帳高取運上等被細のりて累代  
 とも寄り記多し所同のりる屋さす有るはた  
 ○ 山積木運上者云伝あり



の海道に於て、妻一子載の存遺有といふ。大抵遠くあり、  
れ一里敷又合り今十仙卷領を六町をひく。聖と一  
て二十六町を以て一里とせしむ。古の歌妻元今も森谷に奉  
のてく又玉の房儀とありし。山同すて開墾して六枚豊  
鏡十海辺に潮と旋誤穢と。山よりて抄と。高松に就  
返地さる。ゆゑは是と云ふ。後、未後稷の事、以  
あまの首と、數年比も奥羽とありし有り。

三河後風土記

天正十九年九戸修理亮政実一揆の時

神君は神陣に從ふ國士、八南郡大勝を又信直津經中守  
佐牧松井志才守と云ふ。志才を毒笏と射と。こ  
お夷人かく召連束。その斬を異形也。身の毛大に長

して頗る牛は是をト似せりと。改て高。胡麻と稱よ  
さ。此彼夷人れ高と。夫を蝕中。れと。ゆゑのやくを  
と。是の祟も。死犯若と。あつりけ。ト云ふ。

史才又。この正是。守と初と。ひる。一。此。先。有。公。り  
朱印と。給り。け。り。一。統。の。存。亦。代。御。朱。印。頂。戴。有  
亦。文。言。の。篇

定

一 延諸國松浦出入り者大石相模志才。其令直高愛

仁文のわ曲事

一 志才を。此。院。令。渡。海。賣。買。は。り。右。急。夜。と。ら。改。り

内夷人。其。何。方。假。ま。り。た。の。夷。人。公。事。

一 若。更。此。中。抑。者。皆。信。也。事。

右傳若持遠背華之儀之儀料也仍存

長九年正月廿七日

御朱印

御文云同前

右傳若持遠背華之儀之儀料也仍存

御朱印

御文云同前

右傳若持遠背華之儀之儀料也仍存

御朱印

右傳若持遠背華之儀之儀料也仍存

宣

一從諸國松若海味松若島夷人直南愛信等  
一令細多松若令傍海愛信有松若島夷人可任

附、數夷人、手執竹、何、之、の、を、言、ひ、也

一、松、若、島、人、非、之、を、手、に、持、ち、て、行、く、事

右、傳、若、持、遠、背、華、之、儀、之、儀、料、也、仍、存、  
速、に、之、を、裁、料、也、也  
寛文四年四月廿日  
御朱印



2

1. The first part of the book is devoted to a general history of the world, from the beginning of time to the present day. It is written in a simple and plain style, and is intended for the use of the young.

2. The second part of the book is devoted to a history of the British Empire, from the reign of King Henry II to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

3. The third part of the book is devoted to a history of the American Republics, from the time of their discovery to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

4. The fourth part of the book is devoted to a history of the French Republic, from the time of its establishment to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

5. The fifth part of the book is devoted to a history of the Russian Empire, from the time of its establishment to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

6. The sixth part of the book is devoted to a history of the Ottoman Empire, from the time of its establishment to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

7. The seventh part of the book is devoted to a history of the Mughal Empire, from the time of its establishment to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

8. The eighth part of the book is devoted to a history of the Maratha Empire, from the time of its establishment to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

9. The ninth part of the book is devoted to a history of the Sikh Empire, from the time of its establishment to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

10. The tenth part of the book is devoted to a history of the British Empire, from the time of its establishment to the present day. It is written in a more detailed and interesting style, and is intended for the use of the young.

